



水 土 里 ネット ちば

CHIBA

2018
平成30年

No.317 冬号
(新年号)



第23回美しい農村環境写真コンテスト 「印旛沼からの富士山」 撮影場所：成田市松崎 撮影者：鈴木 康雄

CONTENTS

口絵：香取農業事務所が新合同庁舎に移転しました

新年の挨拶

- ・水土里ネット千葉 会長 林 和雄 01
- ・全国水土里ネット 会長 二階 俊博 02
- ・参議院議員 進藤 金日子 03

「農業農村整備の集い」開催される 05
～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～

農業農村整備事業推進に関する 06
要請活動の実施

君津市平山用水完成180年記念式典を盛大に開催 08

ため池フォーラム in くまもと 10

平成29年度財務・会計等研修会の開催 11

農業事務所だより

- ・海匠農業事務所 12
- ・夷隅農業事務所 14
- ・安房農業事務所 16
- ・君津農業事務所 18

水土里ネット広報女性部会【東日本】が開催されました 20

農地を貸したい・借りたいとお考えの方へ 21

年男・年女あつまれ 22

第21回千葉の水回廊ウォーク& 24
疏水百選 印旛沼ウォークのご案内



香取農業事務所が新合同庁舎に移転しました。

香取農業事務所

香取農業事務所は平成29年11月4日から、佐原駅に隣り合わせとなる新合同庁舎に移転しました。

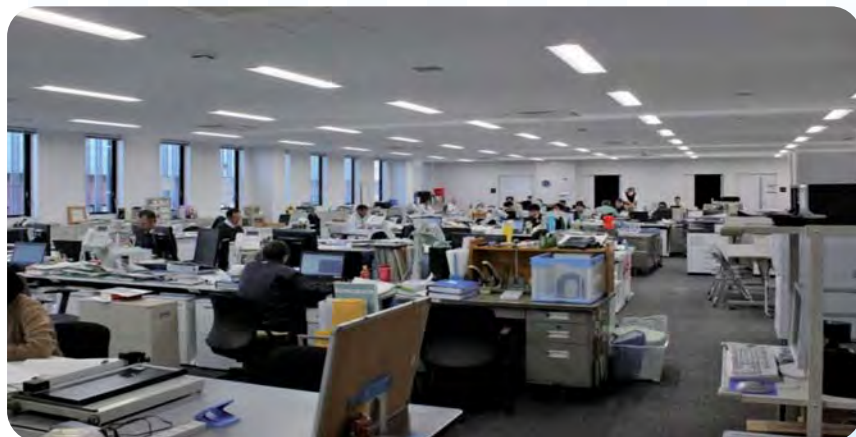
この新合同庁舎には、農業事務所の他に地域振興事務所、県税事務所、教育事務所分室、農林総合研究センター病虫害防除課分室、健康福祉センター、土木事務所が入っています。



新合同庁舎外観



新合同庁舎入口



執務室内の様子



執務室入口

新しい農業事務所はこの新合同庁舎の3階に移り、総務課、企画振興課、改良普及課、地域整備課、指導管理課が同じ階の一つの部屋で業務を行うことができるようになりました。

千葉県農業事務所では初めてのことでございます。

これからも香取地域の農業行政に貢献してまいります。



旧庁舎での記念撮影

土地改良区の声を県民に

水土里ネット千葉
(千葉県土地改良事業団体連合会)

会 長 林 和 雄



新年おめでとうございます。

日頃は、水土里ネット千葉の運営に対しまして会員の皆様はじめ関係各位の温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、11か国によるTPP交渉が大筋合意に至りました。全産業を通じた経済効果は拡大されますが、農林水産業としては多くの疑問とその対策の是非が気になるところであります。また、10月に続けざまに襲来した台風21号・22号により、県内でも農作物や排水路等に多くの被害を受け、早急な復旧が待たれるところです。

さて、平成30年度農業農村整備予算は、昨年より8.2%増の4,348億円、平成29年度補正予算は1,452億円を確保し、昨年度より28億円増の5,800億円となっており、平成21年度当初予算を越え民主党政権前の予算に復活したところです。

また、昨年9月に「改正土地改良法」が成立し、担い手への農地の集積・集約の加速化に向け、農地中間管理機構と連携した新たな基盤整備事業、防災・減災対策の強化が実施できる制度が創設されました。

このような中、県内土地改良区からは、「土地改良事業の事業完了長期化への対応」「収益性の高い農業による所得向上を実現するため、担い手への集積・集約」「国土強靱化を担う農業水利施設等の老朽化による長寿命化対策の遅れ」「防災減災対策等への早急的な対応」など、多くの要望が寄せられています。このため、更なる予算の確保と改正土地改良法の制度活用も含め、土地改良関係者が力を合わせ、農業農村を守り、活気づけるため闘うことが必要です。

農業者は収益性の高い農業を模索しているものの、農地の再整備が必須の条件の地域が多くあります。農業も、地方創生の考え方から市町村と連携することで、その地域にあった効率の良い農業の仕組みを考えていくことが大切です。

さらに、米の消費拡大や担い手の育成・土地改良区の活用等、千葉県民にメッセージを届けるため、様々な媒体を活用した情報発信も必要であると考えます。

水土里ネット千葉は、今後も会員の皆様からの意見要望をとりまとめ、予算の確保と事業制度の改善等、山積する課題解決に向けて、実践活動を現場主義で実施していく所存であります。

引き続きましてご理解とご協力をお願い申し上げ、会員各位のご発展とご多幸をお祈りし、新年の挨拶といたします。

新年にあたって

全国水土里ネット
(全国土地改良事業団体連合会)

会長 二階 俊博



平成30年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年もまた、多くの災害に見舞われました。7月には九州北部地方を中心として集中豪雨が、また、8月には台風5号が和歌山県に上陸、9月には台風18号が鹿児島県、高知県、兵庫県に上陸しました。さらに10月になって台風21号、22号と続けて発生し、沿岸部を中心に非常に大きな被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成30年度当初予算は328億円の増の4,348億円、平成29年度の補正予算を合わせると、5,800億円と平成22年度の大規模削減を上回る水準となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、一昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が滲透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、昨年の通常国会では改正土地改良法が成立し、担い手への農地の集積・集約の加速化に向け、農地中間管理機構と連携した新たな基盤整備事業を実施できる制度が創設されました。また、防災・減災対策の強化や事業実施手続の簡素化といった使い勝手の良い事業制度も整えられました。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくこと

が重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様へアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

引き続き「闘う土地改良」で全力



参議院議員

しん どう かね ひ こ
進 藤 金日子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、佳い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私も参議院議員として国政に参画して2回目の新年を迎えました。新年に当たり、常日頃からの皆様のご協力とご理解に心より感謝申し上げますとともに、心を新たにして皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいる覚悟です。

昨年も災害の多い年でした。7月の九州北部豪雨災害や秋田の洪水被害をはじめ各地で豪雨や台風による被害がありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、昨年引き続き重要な年となります。

まず米政策大転換元年に対する取組です。第一に、本年から国が米の生産数量目標の各都道府県への配分を廃止することに対する取組です。本年からは、地方の再生協議会が独自に米の生産数量目標を定めることとなります。これに応じて、水田における飼料米、麦、大豆等の作付け目標を定め、市場動向等を睨みながら農家や地域の所得確保の最大化に挑むこととなります。この挑戦が成果として結実するには、水田の大区画化や施設管理の省力化等による生産コストの削減を基本として、戦略作物(麦、大豆等)や高収益作物(野菜等)の生産に欠かせない排水改良等の土

地改良が不可欠であり、その役割は益々増大していきます。第二に、米の直接支払交付金(10a当たり7500円の交付)が平成29年度限りで廃止されることに対する取組です。これに関しては、基本的にここ3年の間で回復した米価の安定が最重要課題ですが、あくまでも一律の米価でなく、産地・銘柄ごとに消費者の需要動向に応じた生産を行うことが大切です。不足している業務用米に対して低米価で供給しつつ、更なる生産コストの削減を進め、総体として農家の所得が増加する取組が欠かせません。これについても、土地改良の果たす役割が極めて大きいものがあります。

そうした中で、水田作、畑作双方とも生産コストの削減を徹底することが必要となりますが、その削減分が農家の所得に確実に還元される仕組みの構築が重要となります。その一環として農家負担の少ない土地改良事業の実施が挙げられます。事業実施時の農家負担金を抑制するとともに、施設管理時の農家賦課金を節減する取組、これらは農家個々人の努力のみでは実現できないことであり、政策技術と現場技術の双方から、官民挙げてその知見を総動員する必要があると考えます。こうした視点から、新たに制度化された農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業の活用など、昨年見直された土地改良制度等を有効に活用していく必要があります。

次に予算です。今年度補正予算で昨年に引き続き1,452億円の追加がなされ、更に平成30年度当初予算政府案においても4,348億円(対前年328億円増)が計上され、補正と当初を合わせて5,800億円を確保するなど着実に予算が回復してまいりました。これは、まさに「闘う土地改良」の成果であります。私は、再三強調していますが、補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待をしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。こうした予算の性格と現場の適応性を踏まえた的確な予算要請も重要だと考えています。いずれにしても土地改良は、政策目標を達成するための手段です。その手段が予算不足により機能しなければ目標が達成できないのは自明なのであり、今後の予算要請に当たっては、目標を明らかにしつつ、予算不足がもたらす目標達成への影響を分かりやすく訴えていくことも必要と考えます。

千葉県は首都圏の台所を担う全国有数の農業県ですが、農業生産の基盤である土地改良施設の老朽化度合いが極めて高く、早急な対策が必要と聞いています。また、新たな担い手確保のため、ほ場整備事業の要望地区が増加しており、自然災害に備えた防災減災事業の計画的な執行のためにも、当初予算の十分な確保が求められています。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。私自身、今年も引き続き「闘う土地改良」の先頭に立たせていただき、全力投球で皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいり覚悟を新たにしているところです。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

「農業農村整備の集い」開催される

～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～

水土里ネット千葉 総務部

昨年11月15日、東京都千代田区の砂防会館別館「シェーンバッハ・サポー」において「農業農村整備の集い」が開催されました。

大会には、来賓として齋藤健農林水産大臣をはじめ多数の国会議員が駆けつけ、また、1200名を超える土地改良区の関係者が全国から参集し盛大に行われました。

この集いは、昨年6月にも開催されておりますが、全国の農業農村整備関係者が一同に会し、現下の情勢を共有した上で、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に開催されるものです。

冒頭の主催者挨拶で、二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長は、「今、土地改良は、本年9月に施行された改正土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の時にある。平成30年度予算、平成29年度補正予算を実りあるものとする。皆で団結して期待に応えていく。」と力強く述べられ、土地改良関係者の更なる結束を訴えました。

来賓の祝辞では、齋藤健農林水産大臣が、「土地改良は、農業の競争力強化や国土強靱化といった現下の施策課題に取り組んでいく上で重要な役割を果たしている。農業者が誇りを持ち、安心して活躍できる強い農業の実現、美しく活力ある農村の創出のため、予算獲得に向けて努力していく。」と述べられました。

引き続き、進藤金日子参議院議員・都道府県土連会長会議顧問も祝辞の中で、「農業農村は食料の安定供給に不可欠であり、土地改良は日本の命綱である。この命綱を支えていくため予算確保に向けて皆さんと一緒に頑張っていきたい。」と力説されました。

その後の事例発表では、優れた営農を展開している3地区が紹介され、おわりに要請文を満場一致で採択し、ガンバロウ三唱を一同で唱和し盛会のうちに集いを閉じました。

集い終了後、各県代表者は関連の国会議員や関係省庁へ要望活動を行い、本県も農林水産省に伺い齋藤健農林水産大臣に要請をして参りました。

集いに参加いただいた本県土地改良区の皆様には大変お世話になりました。本誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。



▲二階俊博 全土連会長



▲齋藤健 農林水産大臣



▲進藤金日子 参議院議員

農業農村整備事業推進に関する 要請活動の実施

千葉県土地改良事業団体連合会による財務省要望活動

昨年11月8日(水)千葉県土地改良事業団体連合会による、麻生太郎財務大臣への要望活動を実施しました。当日は、森英介衆議院議員、進藤金日子参議院議員立ち会いのもと、林和雄連合会会長、杉森浩千葉県耕地課長等が参加して、麻生財務大臣に千葉県の農業農村整備事業の先進的な事例を紹介し、農業農村整備事業の平成30年度当初予算確保及び平成29年度補正予算確保の必要性について要望活動を実施しました。



▲要望書を手渡す林会長



▲会談の風景

【要望内容】

- 農業農村整備事業に関する平成30年度当初予算確保及び平成29年度補正予算確保の要望

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会要望活動

昨年11月10日(金)関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会による要望活動を実施しました。

当日は、藤原忠彦長野県土連会長他、一都九県の各専務理事・常務理事・事務局長等が参集し、宮下一郎衆議院議員、小泉進次郎衆議院議員、前田努財務省主計局主計官、農林水産省農村振興局幹部に対して、要望活動を実施しました。



▲小泉進次郎 衆議院議員



▲前田努 財務省主計局主計官

【要請内容(主な内容)】

- 農業農村整備事業予算について、地域からの強い要請に十分対応できる、平成30年度当初予算及び平成29年度補正予算の確保
- 改正土地改良法の積極的活用を通じた事業推進を図るための十分な予算の確保
- 農業者の所得向上の実現から、担い手への農地集積・集約、大区画化や汎用化・畑地化等の基盤整備事業の推進
- 国土強靱化を担う農業水利施設等の長寿命化や耐震化を図るため、保全管理並びに防災・減災対策等への支援強化
- 国営造成施設管理体制整備促進事業の継続

千葉県土地改良事業団体連合会による
農林水産省提案活動

昨年11月15日(水)農業農村整備のつどい終了後、千葉県土地改良事業団体連合会による、齋藤健農林水産大臣への提案活動を実施しました。

当日は、進藤金日子参議院議員立ち会いのもと、山田副会長、鈴木副会長常務理事を始め、千葉土連理事と千葉県手賀沼土地改良区秋山理事長等が参加して、齋藤農林水産大臣に千葉県の農業農村整備事業の先進的な事例を紹介し、農業農村整備事業の平成30年度当初予算確保及び平成29年度補正予算の必要性について提案活動を実施しました。



▲提案書を手渡す山田副会長



▲会談の風景

【提案内容】

- 農業農村整備事業に関する平成30年度当初予算確保及び平成29年度補正予算確保の提案

君津市平山用水完成180

～水田を守って180年・今後の継承も誓う～

君津市大原台土地改良区

君津市大原台土地改良区が管理する「平山用水」の完成180年を祝う記念式典が昨年11月12日に君津市松丘コミュニティセンターで開催されました。

式典には、用水による水田開墾を計画し工事許可の「嘆願書」を提出した鈴木三郎左衛門から数えて10代目の末裔にあたる鈴木辰男氏や来賓の鈴木洋邦君津市長、川名寛章千葉県議会議員などの関係者120名が出席しました。

初めの記念講演会では、「平山用水の二五穴」は「歴史的な遺産だ」と記録映画を製作している西谷大 国立歴史民俗博物館副館長が「平山用水はノミ・つるはしで岩を削りぬき、幅2尺・高さ5尺の用水路（通称：二五穴）を16kmに渡り掘りあげた技術は歴史的な遺産だ。地域の人々の未来に残そうとする意識もすごい」と講演されました。式典では当改良区石井米夫理事長が「平山用水の完成でこの地域に大きな繁栄がもたらされた。先人の偉業をしのび、歴史的な遺産を未来に渡って守り抜く」と決意を



▲挨拶をする石井理事長



▲役員集合写真

述べ、来賓の鈴木洋邦君津市長、川名寛章県議からは「先人の偉業に敬意を表し、施設を守ることは困難もある。今後も応援していく」と祝辞をいただきました。

式典最後の祝賀会では参加者が「完成180年記念式典」を祝い・語り合い、盛会のうちに終えることができました。

平山用水の歴史的な経過・・・

1. 貧しい村の解消に立ち上がる

小櫃川上流は山々が険しく川床が低く農地との高低差があり、田畑に川の流れを利用することが出来ず、天水による水田10町歩と畑39町歩の村は大変貧しかったため、地元の和算家鈴木三郎左衛門は用水路による水田開墾を思い立ち、文政2年に領主川越藩に開墾許可の嘆願書を出したが却下されてしまいました。再度、村人を説き名主や村人連名で天保3年に嘆願書を提出、翌年の3月27日に許可となりました。最初の嘆願から15年目のことでした。

年記念式典を盛大に開催

2. 工事の着手から完成の苦勞

工事は夷隅郡小苗村の君塚五郎右衛門が請負い、天保4年に着手。小櫃川上流の坂畑村稻ヶ先から硬い岩石を「ノミ・つるはし」で削り貫き、幅2尺・高さ5尺の水路(二五穴)を総延長距離で約16kmに及び掘り上げました。この間の水路の高低差は10mあり、高い技術力を知ることが出来ます。工事期間は10ヶ月の予定が3年4ヶ月にもおよび、天保7年7月に完成しました。見積もりでは995両2分だった経費は1,615両を要し、人夫も述べ人数で39,094人かかりました。

3. 高利の年貢取立てが待っていた

開墾された土地は123,047坪の「緑の水田」に生まれ変わり、村人は苦勞が報われた喜びを夢見ました。

しかし、川越藩は収奪のきついことで有名だったようで、高利の年貢取立てが待っており、生活の困窮を訴える嘆願書が出され、天保13年にはこの地域で大きな百姓一揆が起きています。

また、明治21年には人々の浄財で先人の偉業を称えた開拓碑が建立され、題額は逓信大臣の榎本武揚、撰文は漢学者の岡千仞が記しています。



▲開拓碑



▲二五穴からの出口

4. ダムからの取水

昭和54年に県下最大の亀山ダムが完成してからは、安定した取水が確保されるようになりました。

ダムが完成するまでは取水開始の前や台風など大水の都度、「二五穴」に入り堆積した土砂・がれきの撤去をするなど維持管理に苦勞してきましたが、今は堆積物も少なくなり作業も軽減しています。

おわりに

平山用水の完成から180年が経過した現在では「二五穴」も老朽化が進み損傷も見られます。今後は、先人たちが残したこの歴史的な遺産の「平山用水」を未来に渡って守り維持管理していくことが課題となっています。

点検作業の様子▶



ため池フォーラム in くまもと

～ため池を次世代に継承する(立岡自然公園)～

水土里ネット千葉 技術部事業計画課 馬場 光一

熊本県宇土市にある立岡自然公園には、「立岡池」と「花園池」の2つのため池があり、立岡池はA=91,000㎡、貯水量は約300,000㎡で、花園池はA=167,000㎡、貯水量は500,000㎡であり受益面積は278haとなっている。近年では、農業従事者の減少や減反により、受益面積はかなり減ってきている。

本自然公園には、約2,000本の桜があり、桜の名称として親しまれてきたが、花見シーズンを終えると閑散とした公園であった。花園クリエイティブクラブは、地元である花園小学校の同級生で構成されている。小学校の同級生が自然公園で花見をしたことがきっかけとなり、「公園に四季折々の花が咲き、一年中多くの人々が訪れる公園にしたい」という思いから発足された。最初は、コスモスを植えることから始め、活動資金は熊本県の「里モノプロジェクト」に応募し補助金を活用し、その他は親戚、知人、地域の人々から賛助金を募り、花の種、苗、土、肥料、農機具を購入した。クラブの活動は、月に2回から5回ほど花を植える活動を行っている。今では「花しょうぶ園づくり、鑑賞会」「地元小学生とコラボしコスモスの苗植え」「桜まつりでの花や野菜の販売」「木漏れ日の森づくり(藪を開墾し人々の憩いの場づくり)」等の活動を行っている。現地研修に訪れた時期は、花の時期ではなかったが、ため池で釣りを楽しむ人々や綺麗に整備された遊歩道は散歩やジョギングを楽しむ人が多く見られた。また、木漏れ日の森では近くの幼稚園の遠足だったらしく、子供たちがどんぐりや、松ぼっくりを拾いあつめ、懐かしいようなほっこりした時間がながれていた。40～60分くらいかけ、遊歩道(ため池)を一周し、ゆっくりとした贅沢な時間を過ごさせて頂いたとともに、この様な環境づくりは、多忙な行政職員が主体では決して出来ないだろうなと実感させられた。

最後に、花園クリエイティブクラブの代表は「加藤清正公がつくった郷土の宝を、次世代に継承し守っていきたい」と力強く話されていたことが深く記憶に残っている。農業従事者が減少している今、ため池は地域から必要とされない施設となっていくのかも知れない。そんな中、地域の人々が中心となり、活動することで地域の憩いの場として愛されていくこと、歴史が繋がれていくこと、それこそが人々の故郷

になっていくこと。故郷とは生まれ育った場所を知り、それを人が守り、人が継承していくことで、かけがえのないものになっていく事を深く感じた。そんな風にため池を眺めていたら、前日に飲みすぎた焼酎の苦しみもすっかり良くなり、晴れやかな気持ちで次の現地研修の場に向かうことができた。



平成29年度財務・会計等研修会の開催

水土里ネット千葉 管理指導部



▲開催の挨拶

昨年11月7日(火)、8日(水)千葉県土地改良会館四階大会議室において「平成29年度土地改良区財務・会計等研修会」が県内194の土地改良区の監事・会計理事及び事務職員を対象に2日間に分けて開催され、のべ243人が出席しました。

午前の講義では、全国水土里ネット経理部金内主任から「土地改良区複式簿記の基礎知識」の講義があり、複式簿記での仕分け等の注意点や導入によるメリットについて説明されました。

また、資産評価のいろいろな方法についても解説していただきました。

午後には、関東農政局農村振興部土地改良管理課五味田係長から「土地改良区の監事及び理事の役割について」の講義があり、土地改良区の組織体系や諸規程及び帳簿体系と併せて理事・監事の業務及び責務について説明し、改良区運営における重要な役割を担っていると解説されました。

また、改良区の過去の不祥事についても事例を交え説明されました。



▲講師の五味田係長

休憩後の講義では、千葉県農林水産部耕地課兼坂副主幹から、「土地改良区の統合整備について」として土地改良区の合併による効果と課題について説明されました。また、同じく耕地課の鈴木主幹から「個人情報保護法の改正について」として講義があり、個人情報保護法の改正における土地改良区への影響について説明されました。

研修会に参加された方からは「参考になった、だいたい理解できた」との意見が半数以上を占めた一方で、複式簿記については今後の勉強や、より一層の努力と、移行していくためには時間も必要になるといった声もありました。



▲講師の金内主任



▲講師の鈴木主幹

皆様からのご意見を参考にさせていただき、今後の研修会に繋げて行きたいと思っております。

最後に、2日間に及び講義をしていただいた講師の皆様にはこの場をかりて厚く御礼を申し上げます。



▲講師の兼坂副主幹



研修の風景▶

希望の轍 ～さらに向こうへ～

海匝農業事務所

1 はじめに

海匝地域は、千葉県の北東部(県公認のゆるキャラ“チーバくん”の耳から首)に位置し、坂東太郎の異名を取り、畏敬の念とともに親しまれている利根川、県内唯一のリアス海岸で、太平洋の荒波にもビクともしない雄大なスケールで迫る屏風ヶ浦、一転、その南には太平洋をなぞるように美しいカーブを描く九十九里浜があります。



これらの風光明媚な景勝地は、訪れる人々に癒やしを、さらには明日への活力も漲らせてくれます。また、1年を通して温暖な気候や関東ローム層がもたらす豊かな台地は、農産物の生産額で全国トップレベルを誇る千葉県にあって、これを牽引する海匝地域の大きな特徴の1つです。



2 海匝地域の農業

匝瑳市、旭市、東庄町からなる一帯は、江戸時代前期の干拓により、「樁の海」と呼ばれる海水湖から「干潟八万石」と称される広大な水田に生まれ変わりました。先人達の英知と尽力の賜物である農地は、300年以上の時を経て21世紀となった今日でも地域で脈々と受け継がれ、稲作を中心としながらも、時代のニーズに応えるべく、近年では野菜・果樹・花卉等を導入するなど新たな取り組みも見られます。この辺りは個人的に大河というか、時代のロマンを感じます。

海匝地域は干潟八万石だけでなく、管内全域で水稻のほか園芸作物や畜産も盛んで、それぞれの分野で全国的にも有数の生産地となっています。特に旭市は、市町村別農業生産額で、昨年度全国第6位という栄誉を獲得しました。今年度は目指せ!全国ベスト5!をスローガンに、生産者だけでなく農業関係者、市役所も一丸となって取り組んでいると聞きます。今夏、某アイドルグループが出演する人気番組のコーナー「〇円食堂」で、旭市の名産品である賞味メロン(肉厚で甘くてジューシー)やマッシュルームなどが提供される映像が放送されましたが、記憶に新しい方も多いのではないのでしょうか?

3 切望される道路網の整備

海匝地域は、千葉・東京へ向かう幹線道路同士の間隔が十分とは言えなかったため、たとえ品質の良いものを作ったとしても、採れたてを新鮮なまま消費地へ運ぶことは困難という、流通面での課題を抱えていました。そこで、県はこの問題を解消するための切り札として、東総地域における広域農道の整備計画を立案しま

す。全線開通すれば、建設区間と呼ばれる県道と連絡し、整備中の銚子連絡道をはじめ、東関東自動車道、圏央道や国道等との接続により、千葉・東京方面だけでなく、海外セールスを視野に入れた成田空港とのアクセスが今よりずっとスムーズになります。また、有事の際の、人や物資の輸送ルートとしての機能も期待されます。

4 広域農道

海匝地域には「東総地区」と「東総台地地区」の2つの広域農道があります。東総地区はすでに全線開通済みで、地域の主要道路としての役割を果たしています。東総台地地区は、I期地区(銚子ルート)及びII期地区の一部(北ルート)が開通済みで、II期地区も残り約1.3km余りとなりました。それほど遠くない未来、海匝地域で採れた新鮮な農産物を載せたトラック群が、広域農道に希望の轍を残して千葉や都心へ向かう姿が思い浮かびます。私たちは「意志あるところに道は開ける」をスローガンに、海匝地域の、海匝地域による、海匝地域のため、真に必要な土地改良事業として引き続き広域農道の整備を進め、1日でも早い全線開通を目指します。

東総台地II期地区の概要

- 事業工期 H29～H33
- 事業量 L=1,384m
- 事業費 1,657百万円



① 起点(銚子市) ② 終点(旭市・東庄町)




①完成後はT字路が交差点に生まれ変わり、直進が可能に。 ②周辺には名物となった風力発電の風車が多く見えます。

5 聖地巡礼? ～管内匝り～

ここではちょっと脱線して、海匝地域にお越しの際は休憩やおみやげを兼ねて、ぜひお立ち寄りいただきたいスポットを紹介します。

本銚子駅

銚子市は漁業と醤油の町として全国的に有名で、朝ドラの舞台にもなりました。今回は、おなじみ「ウォッセ」のほか、映画のモチーフやTV番組でリフォームされた「本銚子駅」を紹介します。名物の「ぬれ煎」を頬張りながら乗車すれば、見えるのは、パツと光って咲いた花火♪か?波の花か?



大正ロマン風の駅舎はインスタ映え間違いなし!

ふれあいパーク八日市場

広域農道東総地区の中間地点に位置し、農道版「道の駅」ともいえる存在です。地域の新鮮な農産物や加工品を扱う他、「植木の町」の顔も持つ匝瑳市らしく、盆栽や鉢植えの品揃えも充実しています。なお、すぐ隣では、干潟八万石の一部である「春海・椿海・豊和」の各地区で農地整備事業を実施しています。



体験農場ではタケノコ、さつまいもの収穫体験やザリガニ釣りのイベントもあります。

道の駅「季楽里」

広域農道をしばし離れて国道126号線を少し入ったところにあります。地域の新鮮な農水産物を取扱うことや地域医療の核となる病院の傍という立地の良さも相まって、開設したばかりですが、集客数を伸ばしています。近隣では、千葉県を代表する農業の1つ「大根用水」の受益である用水「飯岡西部」地区で農地整備事業を実施しています。



遊具のある公園が併設され、ファミリーにもおススメ!

6 おわりに

これまでお伝えしてきたように、海匝地域では温暖な気候と豊かな自然に決して甘えることなく、時に対峙し、時に活かしながら、たゆまぬ努力と独創的で卓越したアイデアにより、地域の基幹産業のひとつである農業を発展させてきました。今日より明日、そして明後日がより良い日でありますように、さらに向こうを目指して駆け続けたいと思います。

おわりに、海匝地域の農業が今後も継続的に発展し続けるよう、微力ではありますが私ども海匝農業事務所としましても、関係機関と連携を図りながら各種基盤整備事業や多面的機能支払交付金事業などを通じて、農村振興を推進してまいります。

ため池等整備事業 おおやつ 大谷地区

夷隅農業事務所

大谷ため池は、いすみ市長志^{ながし}に位置し、明治10年に築造され約140年が経過しています。築造以来、改修時期は不明であるが、堤体右岸・洪水吐・取水施設を改修しながら現在に至っており、地区内の重要な水源となっています。ため池の特徴としては、堤高6.2m、堤長110.7mに対し、貯水量16,100m³と比較的小規模なため池となっています。

堤体盛土は非常に軟弱で、堤体左岸部の上流法面の浸食が大きく、数ヶ所のパイピング孔から漏水が確認されています。

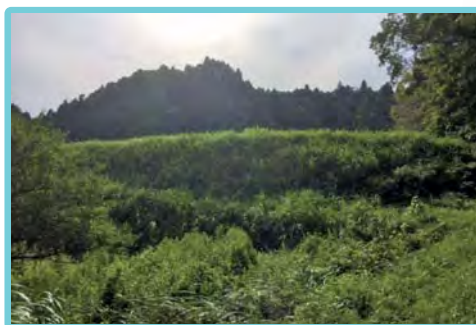
また、取水施設や洪水吐は老朽化により維持管理に多大な労力を要しています。

さらに、堤体下流には農地や人家等が近接しており、本事業により早期の改修工事を行い、農作物及び人家等への被害を未然に防止し、用水確保による農業経営の安定を図る必要があります。

ため池の管理団体である長志上区は、大谷ため池に隣接する谷口ため池(貯水量8,000m³)も管理しています。いずれも地域の重要な水源となっており、年間を通じ適切な維持管理に努められています。



位置図



堤体(前面)



全景(左岸より)



全景(右岸より)

<ため池等整備事業の概要>

- 事業主体 千葉県
- 事業工期 平成29年度～平成32年度
- 事業費 104,000,000円
- 工事概要

堤体土工	V=11,534m ³ (セメント系固化材による改良)
堤体護岸工	A=973m ² (ブロックマット工法)
洪水吐工	L=16.8m(正面越流堰式)
取水施設工	L=14.1m(鋼製スライドゲート)
- 負担割合 国55%、県29%、市14%、地元2%

▶ 取水工(ため池側)



▶ ため池栓



▶ 取水工(隧道内)



▶ 洪水吐(水路流入式)



▶ 洪水吐(隧道入口)



▶ 流末水路



安房管内の農業用ダムについて

安房農業事務所

安房地域は急峻狭小な地形が多く、農業用水は昔から小規模な河川、ため池、風車井戸、天水などに頼っており、常に用水不足に悩まされてきました。

そこで、安定した農業用水を供給するために農業用ダムが建設されて、安房地域の農業の発展に大きく貢献しています。

今回、安房管内に建設された4箇所の農業用ダムを紹介します。

安房中央ダム

安房中央ダムは、昭和31年度から昭和54年度にかけて「県営安房中央用水改良事業」により2級河川丸山川上流の南房総市川谷地先に築造された農業用ダムです。館山市、南房総市(旧安房郡丸山町、三芳村)の2市に跨がる受益地970haに農業用水を供給しています。

現在、施設の老朽化等により取水機能の低下や施設の安全性が懸念されることから、平成16年度から「県営かんがい排水事業(更新事業)安房中央地区」により取水設備等の大規模な更新工事を行っています。



▲更新前の取水設備

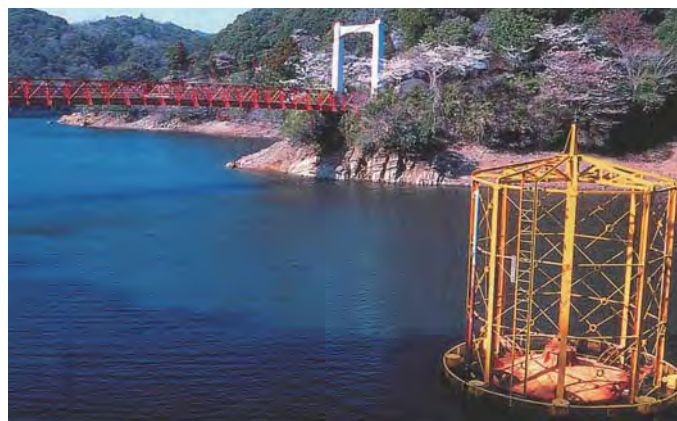


▲更新後の取水設備

金山ダム

金山ダムは、昭和27年度から昭和41年度にかけて「県営加茂川左岸用水改良事業」により2級河川金山川上流の鴨川市打墨地先に築造された農業用ダムです。鴨川市の中央を流れる加茂川及び支流である金山川沿岸の受益地482haに農業用水を供給しています。

現在、「経営体育成基盤整備事業(加茂川中部地区)」により金山ダムの受益地内の約70haの農地で、ほ場整備を実施しています。



保台ダム

保台ダムは、昭和60年度から平成12年度にかけて「かんがい排水事業（一般型、県営）東条地区」により2級河川待崎川上流の鴨川市和泉地先に築造された多目的ダムです。待崎川下流の受益地240haの農業用水と鴨川市の上水道用水を供給しています。

また、平成4年度から12年度にかけて「ほ場整備事業（県営）東条地区」により耕地の大区画化と汎用化が図られた受益地では、営農組合などの担い手への農地集積が進んでいます。



佐久間ダム

佐久間ダムは、昭和52年度から平成4年度にかけて「かんがい排水事業（一般型、県営）佐久間地区」により2級河川佐久間川上流の安房郡鋸南町上佐久間地先に築造された農業用ダムです。佐久間川沿岸の受益地245haの農業用水を供給しています。

また、平成5年度から14年度にかけて「地域用水環境整備事業」により、親水施設や自然環境に親しむ施設を整備しました。佐久間ダム周辺では、毎年12月から2月に水仙、2月から梅、更に頼朝桜（カワツザクラ）が続いて咲き、3月下旬には桜（ソメイヨシノ）などの花の競演があり、多くの見物客でにぎわいを見せています。



ダムの諸元データ

	安房中央ダム	金山ダム	保台ダム	佐久間ダム
用途	農業用水	農業用水	農業用水・上水道用水	農業用水
総貯水量	2,113千m ³	1,801千m ³	2,740千m ³	1,270千m ³
有効貯水量	2,024千m ³	1,727千m ³	2,540千m ³	1,216千m ³
ダム形式	均一性アースダム	均一性アースダム	重力式コンクリートダム	中心コア型フィルダム
堤高	36m	28.3m	41m	25.5m
堤長	110m	110 m	198m	186 m

君津地域の水稲種子生産の取り組み

—県内生産の半分を供給する産地支援—

君津農業事務所

千葉県は、耕地面積のうち水田の割合は6割弱ですが、君津地域は7割以上と水田が農業生産の柱になっています。小櫃川と小糸川を有し、豊かな水と肥沃な農地に加え、長年培った栽培技術と勤勉な気質が高品質な水稲種子生産を可能にしています。

千葉県内には5つの種子産地がありますが、その中でも、君津地域は県内生産の約50%を占める最大の産地となっています。

君津農業事務所では安定した水稲種子供給のため、各種子生産組合の課題に応じた技術支援を行い、安定生産を支援しています。



▲生産された種子

千葉県は、千葉県が育成したオリジナル品種の「ふさおとめ」と「ふさこがね」ばかりでなく、「コシヒカリ」、「ヒメノモチ」、「ふさのもち」、「アキヒカリ」の種子を生産しています。この内、君津地域では「ふさおとめ」と「ふさこがね」及び「コシヒカリ」の3品種を生産しています。

水稲種子の生産ほ場のことを採種ほと称します。採種ほは、君津市、富津市を中心に、木更津市、袖ヶ浦市を含む4市全体に分布しています。生産者組織は、JAきみつ小糸採種組合(42戸)、JAきみつ小櫃採種組合(14戸)、JAきみつ君津種子生産組合(2戸)、JAきみつ富津市採種組合(7戸)の4組合で合計65戸が約170haの栽培を行っています。後継者への世代交代も進み、若手生産者も多い活気のある産地です。



▲栽培技術向上研修会

種子栽培は、毎年、千葉県農林総合研究センターが生産した原種を種子生産者が購入して行います。

病害虫の被害がなく、斉一な生育をした稲に育て、異品種の混じらない種籾を生産するため、高い技術と集約的な管理が必要です。

そこで、種子生産組合では研修会やほ場巡回、技術実証ほの設置などを行い、高品質な種子籾が生産できるように努めています。



▲ほ場審査

ほ場審査では、他品種が混ざっていないことを第一に、形質のばらつきや病害虫等の被害がないこと、並びに生育良好なことを確認します。

936筆のほ場について、1筆ずつ畦畔と水田の中を歩きながら審査します。

農業事務所職員に加え、県庁担当者、農林総合研究センター、NPO法人ちば農業支援ネットワークの応援も得て実施しています。

ほ場審査の後には、生産物審査(発芽試験)、DNA検査、農産物検査などを行い、種子として必要な品質を確保しています。



▲発芽試験



▲DNA検査試料採取



▲農産物検査



▲種子センターで調製・袋詰め

平成28年、29年と8月以降の収穫期に降雨が連続する気象条件が続き、刈り取り作業能率の低下が起きています。産地では適期の中干しや溝切りの徹底を行っていますが、ほ場条件の一層の整備が必要です。

今後も安心して種子生産に取り組むため、施設・機械の整備とほ場排水対策、及び農地集積など新たな課題に関係機関のご支援をいただきながら取り組みます。

水土里ネット広報女性部会【東日本】が 開催されました

水土里ネット千葉 管理指導部
管理指導課 箕箸 美雪

昨年11月15日(水)に全国水土里ネット主催により、標記広報女性部会の研修会が開催されました。

開催にあたり、全国水土里ネットの小林専務理事より、「女性の発想力や能力を活かし効果的な広報活動を推進して欲しい。また、難しく考えずに、楽しい気持ちで自由にやって欲しい。」と挨拶がありました。



▲全国水土里ネット小林専務理事



▲ちば水土里ネット女性の会
左が大野会長

その後、先進的に活動を行っている県からの情報提供として、既に立ち上げている「ちば水土里ネット女性の会」と「やまなし水土里ネット女性の会」から報告がありました。

最初に、千葉県では平成20年度に女性の会を立ち上げ現在に至っていること、経緯等、また、最近では関東農政局などでも女性の意見交換会が開催されていることを私から報告し、「ちば水土里ネット女性の会」の大野志津子会長(天羽土地改良区主幹)からは今までの活動状況を述べ、研修会や講習会を積み重ねてきたことで会員間の交流が図られ、日頃行っている業務の相談や意見交換もスムーズにできるようになった等、10年間の活動の成果と、一方では、参加できない女性職員がいることや参加経費のこと等、いくつか課題があることを述べられました。

次に、9月に設立した「やまなし水土里ネット女性の会」の水土里ネットやまなしの萩原丈巳総務課長から立ち上げの状況や会則・活動計画について説明がありました。設立総会には、参議院議員の進藤金日子先生を来賓としてお招きし、会の顧問には山梨県の女性副知事である柵木環氏に就任していただいたということです。今後は、スキルアップのための研修会の開催や多面的機能支払の活動組織で活躍されている女性の参加も考えているということでした。

その後、全国水土里ネットの長山企画研究部長より、「農業農村整備事業について(なぜ、要請活動等を行うのか)」をテーマに、NN事業の現況や要望・課題等について説明があり、更なる国民理解を得るためにも若者や女性、できれば都市住民の理解を得ていく必要があることに言及されていました。更に、「女性が輝く社会」をつくる安倍内閣の最重要課題のひとつとして、農林水産分野における女性活躍の取り組みを紹介し、第4次男女共同参画基本計画に「集落営農組織や土地改良区における意志決定過程への女性の参画拡大に向けた取組を促進する。」と明記されていることも紹介されました。

最後に、立ち上げの準備を行っている県から準備状況や課題について、既に設立している県からは課題をどのように解決して行ったのか、意見交換が行われました。

このように、各県で女性の会を立ち上げる機運が高まり、今後の活動を着実に定着させていくためにも、各都道府県水土里ネットの参加で行われる「農業農村整備の集い」や「全国土地改良大会」への女性の参加が広がっていくのも必要ではないかと締めくくられました。

他県の状況を聞いて、「ちば水土里ネット女性の会」も外へと活動が広がっていくようにできればと感じたところです。

農地を貸したい・借りたいとお考えの方へ

県では、農地中間管理機構を活用して、
大規模に農業を営もうとする人などに、まとまった形で農地を貸し付け、
農地の集積や集約化を図り、経営の効率化を進めています。

農地を貸したい・借りたいとお考えの方は、(公社)千葉県園芸協会にお問い合わせください。

農地の貸し借りは 機構におまかせください!



借受け

- ・高齢で農作業ができなくなり、後継者もない
- ・今後は施設野菜(水稲)に専念したいので田(畑)はやめたい
- ・相続した農地を誰かに貸したい

農地を貸したい方

農地中間管理機構

- 担い手がまとまりのある形で農地を利用できるように配慮して貸し付けます
- 必要に応じて、農地の利用条件を改善します
- 手続きは、機構及び市町村が協力してお手伝いします
- 賃料の徴収、支払いは機構が責任を持っています

※借受けの対象となる農地は、農業振興地域内の農地です

貸付け

- ・まとまりのある農地を借り受け、経営規模を拡大したい
- ・新規就農として参入したい
- ・分散した農地を1か所にまとめ、効率的な農業をしたい

農地を借りたい方

農地中間管理機構は県知事指定の**公的機関**です

千葉県

千葉県農地中間管理機構
(公益社団法人 千葉県園芸協会)

●お問い合わせ先 043-223-3011 (千葉県園芸協会)

年男・年女あつまれ!

2018年は戌年です。

本来、干支というのは「じっかんじゅうにし十干十二支」のこどを言い、2018年は十干の5番目の「戌」と十二支の11番目の「戌」の年になるので戌戌となります。「戌」は元々「つちのえいぬ滅」と書いてほろぶという意味で使われていたようですが、紅葉を終えた草木が再生するために土の中に還り、青々と力強く繁っていくことを表す意味もあるようです。

戌年生まれの方は、物事に対して熱心で正義感が強く、真面目で忍耐強く働き者と言われています。その反面、防衛本能が強かったり神経質などころもあるなど、怒らせたら怖いような一面もあるそうです。

また、戌年の人は持って生まれた運の良さがあり、危機に瀕した際には助けられる人が必ず現れると言われています。そんな不思議な良運を持ち合わせている本会の戌年生まれの職員を紹介します。



換地部換地課 換地第一係 田中 実(1958年生まれ)

あけましておめでとうございます。5回目の年男ということで情報誌に掲載して頂くことになりました。前回は載せていただきましたが、その年は男の厄年というのでしょうか、バツチリと病氣やらケガやらで最悪の一年でした。ですから今年は健康で一年を過ごせればと考えております。土地改良事業を取り巻く状況だけでなく、社会の状況が時々刻々と変化するなかでまずは目の前にある仕事や家庭、自分の健康を考えて何を優先していくべきか考えながら歩んで参りたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。最後になりましたが皆様のご多幸をお祈り申し上げ、新年の抱負とさせていただきます。

管理指導部水土里支援課 水土里支援係 吉橋 勇一(1970年生まれ)

新年明けましておめでとうございます。

今年で48才、早いもので4回目の年男を迎える年齢となってしまいました。

私は競馬が好きで、馬券もたまに購入しますが、純粹に馬の競争が好きです。私の好きな競走馬に2000年頃活躍したアグネスデジタルという馬がいました。この馬の凄いところは芝のGIレースだけでなく、ダートのGIレースを勝ち、国内のみならず、海外のGIレースを勝った超万能競争馬なのです。ジャンルは違いますが、野球で投手・野手の二刀流の北海道日本ハムファイターズ、大谷翔平投手がエンゼルスに入りメジャーリーグに挑戦を表明しました。大谷投手にはアグネスデジタルのように海外での大活躍を期待しております。

さて、私の抱負ではありますが、アグネスデジタルや大谷投手を少しでも見習って、二刀流までとはいきませんが、どんな仕事でもどんな環境でもどんな状況でもそれなりの結果が出せるよう努力したいと考えております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



技術部環境整備課 環境整備係 林 誠嗣(1958年生まれ)

明けましておめでとう御座います。60男の年頭に当たっての抱負というお話を頂き、抱負とは程遠いながらも“今年への思い”を一筆書かせて頂きます。

今年も例年に劣らず、いろいろな事を自分なりに精一杯やり、いろいろ失敗もいろいろな人に助けられ、いろいろと時間がかかっても実が結び、いろいろな人から“いろいろありがとう”と言われる、いろいろな意味でよい一年にして行きたいと思っています。いろいろと。

結びにみなさまにとっても、いろいろと多幸な年で有ります様に、いろいろと。

「年男」より言われたい「いろ男」

換地部換地課 換地第一係
山本 友見(1970年生まれ)

新年あけましておめでとうございます。

今年は私の干支「戌年」です。我が家ではペットを飼っていないので、可愛い犬たちの動画を見て日々癒されています。

そんな犬たちですが、本来の特性を生かした特殊分野で活躍する犬がいます。ご存じの通り、盲導犬・介助犬・聴導犬・警察犬・災害救助犬等がいます。嗅覚や聴覚の優れた身体能力を活かし人の助けをしてくれます。

私にはこのような優れた身体能力はありませんが、出来る限りの力を出し切り仕事に取り組んでいく所存です。今年一年、健康第一で、多くの事にチャレンジし、ワンランク上の自分に成長できたらいいなあと思っています。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

管理指導部水土里支援課
水土里支援係
伊藤 有希(1994年生まれ)

新年あけましておめでとうございます。

私は平成27年4月に入社し、早いもので3年が経過しようとしております。入社した日がついこの間のように思えますが、実際に生活していると月日を感じます。

歳をどっただけで成長が出来ていない自覚があるので、今年は目標を立てて頑張りたいと思います。

管理指導部水土里支援課
水土里支援係
藤代 洋一(1958年生まれ)

新年あけましておめでとうございます。

どうどう還暦を迎えることとなりました。昔の還暦に比べると重みの感じられない60歳になりそうです。

それでも一つの区切りとして受け止めて、なにか新たに目標を探す年にしていろいろやっていきたいと思っています。

本年もよろしくお願ひ致します。

管理指導部水土里支援課 水土里支援係
佐藤 幸子(1970年生まれ)

新年、あけましておめでとうございます。

主にシステム関連の業務を担当して、三年目を迎えました。

今年の抱負ですが、少しでも皆様に貢献できるように自分自身のスキルをワンランクアップさせたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

第21回 千葉の水回廊ウォーク & 疏水百選 印旛沼ウォークのご案内

花見川-新川-印旛沼の水回廊は、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」の道筋です。印旛沼は、私たちの生活や国土を潤す「みずのみち」として先人によって築かれたもので、日本の「疏水百選」に認定されました。この悠久の道につながる水辺、桜、花木、水田風景、野鳥の声など心地よい自然に触れながら歩きを楽しみましょう。

今回で21回目を迎える「千葉の水回廊ウォーク&疏水百選 印旛沼ウォーク」は、心地よい自然に触れながら歩きを楽しむことにより、参加者の心身の健康を増進するとともに食糧生産だけではなく、私たちの県土や環境の保全に重要な役割を果たしている疏水や農業・農村への理解を深めるために行っているもので、今回は200人を超える参加者がウォーキングを楽しまれました。

なお、詳細については、NPO法人ちば歩こう会に直接お問い合わせください。

1 実施日 平成30年4月7日(土曜日) 雨天決行

2 歩行内容 (雨具、帽子、昼食、健康保険証などは各自ご持参ください。)

	30kmコース	20kmコース	10kmコース
集合場所	京成酒々井駅東口	JR佐倉駅	新検見川公園 (JR総武線 新検見川駅 徒歩2分)
集合時間	午前8時	午前9時	午前10時
ゴール	大和田機場 (京成大和田駅徒歩12分 京成勝田台駅徒歩15分) ◎受付は16時迄		
歩行方法	コース地図と矢印標識を見ながら各自のペースで歩く自由歩行です。		

★コースの概要については、別頁の地図を参照してください。当日歩行用のコース地図は後日配布します。

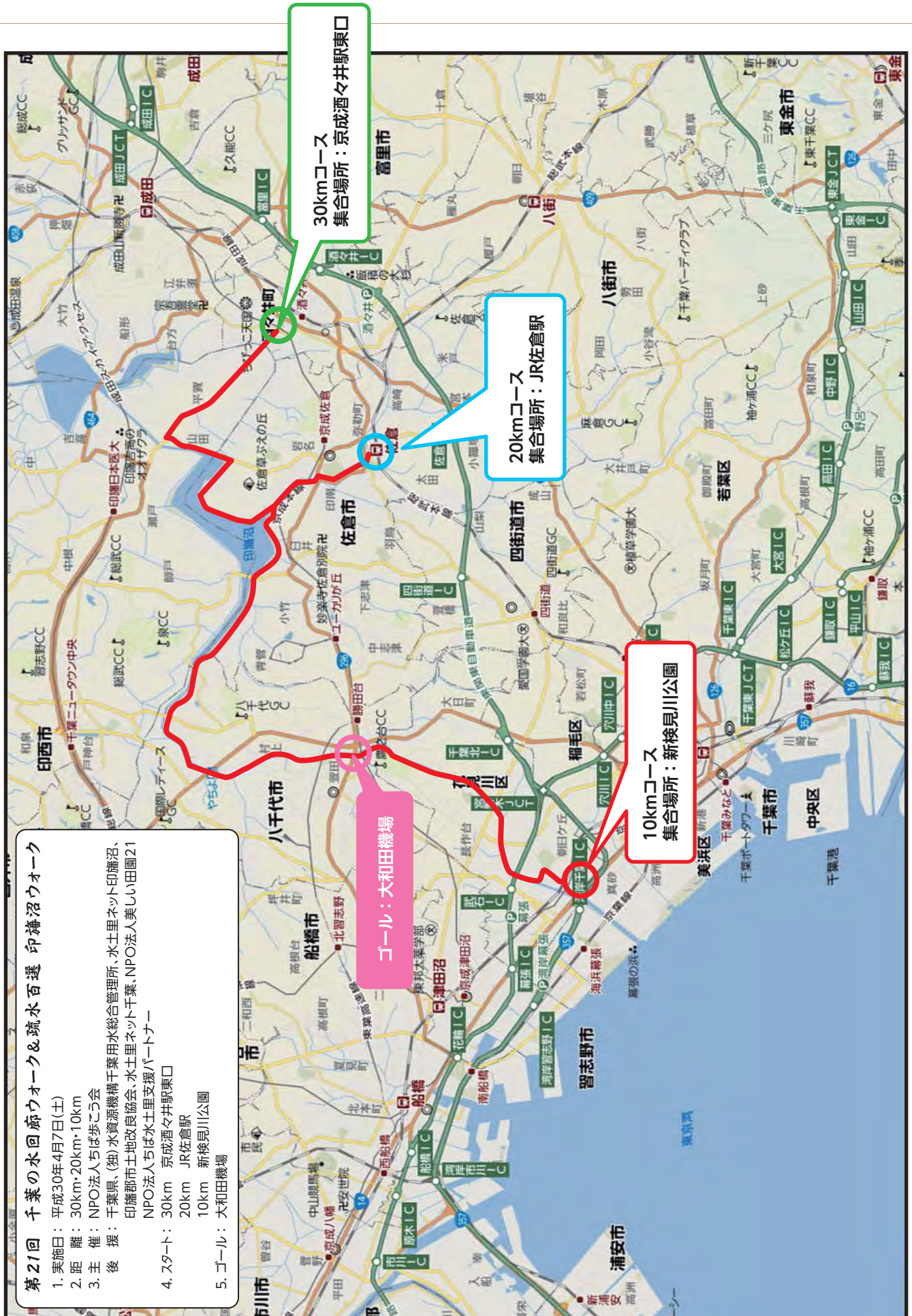
3 参加費 500円 (小学生以下無料) (コース地図、完歩証、傷害保険料、飲料水、農産物など)

4 参加申込 当日、各集合場所で受付します。

5 免責範囲 参加者は事前に健康診断等を受けて、万全の体調のもとに、参加してください。万一事故が発生した場合、主催者は保険による適用範囲以外の責任は負えません。

6 問合せ先

NPO法人ちば歩こう会 TEL 080-3421-0267 (担当 田口)
 水土里ネット印旛沼 TEL 043-484-1155 (担当 岩本)
 千葉県印旛農業事務所 TEL 043-483-1131 (担当 伊藤)
 NPO法人美しい田園21 TEL 043-497-3962 (担当 金澤)



- 第21回 千葉の水回廊ウォーク&疏水百選 印旛沼ウォーク**
1. 実施日：平成30年4月7日(土)
 2. 距離：30km・20km・10km
 3. 主催：NPO法人ちば歩こう会
後援：千葉県、(独)水資源機構千葉用水総合管理所、水土里ネット印旛沼、印旛都市土地改良協会、水土里ネット千葉、NPO法人美しい田園21
NPO法人ちば水土里支援パートナー
 4. スタート：30km 京成酒々井駅東口
20km JR佐倉駅
10km 新検見川公園
 5. ゴール：大和田機場

平成三十年



謹賀新年

本年もより一層の
ご指導ご支援を賜りますよう
お願い申し上げます

千葉県土地改良事業団体連合会

会長

林

和雄

副会長

山田 一夫

副会長常務理事

鈴木 大作

外

役員 一同



水土里ネットちば 317号 (平成30年1月発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711(代)/FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753